

令和3年度 第3回

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会 会議録（案）

■日時：令和4年2月9日（水）15時00分～16時30分

■場所：アーバンデザインセンターびわこ・くさつ

■出席委員：肥塚座長、加藤副座長、及川委員、阿部委員、田畑委員、神部委員、阪本委員、秦委員、松浦委員、木村委員、伊庭委員、有村委員、福知委員、内山委員、亀石委員、北村委員、松井委員

■欠席委員：なし

■傍聴者：2人

■事務局：木村副所長、岸本副部長、田中参与、本村調整員、中瀬参事、中野主任、辻会計年度任用職員、布施担当課長（立命館大学地域連携課地域連携担当課長）

1.開会

【事務局】

皆様、定刻になりましたので、只今より令和3年度第3回アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会を開催させていただきます。コロナウィルス感染症が蔓延していますことから、本日の懇話会は1時間半以内に終了させていただきたいと思っております。また、本日は傍聴者がおられますので御了承いただきますようお願いいたします。それでは、まず始めに、草津市総合政策部長で草津未来研究所副所長の木村が御挨拶申し上げます。

【木村副所長】

皆様こんにちは。本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。全国的な新型コロナウイルス感染症の感染拡大により滋賀県や草津市においても余談を許さない状況であり、UDCBKでもオンライン等を使用しながら環境の変化に対応できるよう日々試行錯誤を行っているところです。本日は今年度最終の懇話会となりますが、報告にあります今年度の事業報告や協議の議題にあります来年度の事業計画案につきましては、今後のUDCBKの組織形態の在り方や産学公民のさらなる連携を目指すために皆様それぞれのお立場から様々なアイデアや御意見を頂戴し、来年度に向けて参考とさせていただきたいと考えております。今後のUDCBKの活動をさらに発展させていけるよう御出席の皆様のお知恵を借りたいと思っておりますので、ぜひ忌憚のない活発な発言をお願いします。

【事務局】

本日も前回と同様にオンラインを導入させていただいております。及川委員、阪本委員、松浦委員、木村委員、北村委員と、事務局からは立命館大学BKC地域連携課の布施課長がオンライン参加となっています。次に配布資料の確認をさせていただきます。資料

は、次第と資料1～3となります。皆様のお手元にございますでしょうか。それでは、開会にあたりまして、座長の肥塚先生から御挨拶いただきまして、続けて議事進行をお願いいたします。

【座長】

皆様こんにちは。座長の肥塚でございます。新型コロナウイルスがこのような状況でございますので、挨拶につきましては、長くないよう省略させていただきたいと思いますが、粛々と議論すべきことはやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

2. 報告

【座長】

それでは次第の「2. 報告」、資料1の「UDCBK令和3年度事業報告」につきまして、事務局からお願いします。

【事務局】

(資料の説明)

【座長】

補足等あればお願いします。

【A委員】

コメントですが、社会実験準備事業としてプリムタウンの公園づくりについて、ワークショップ等盛んに行っていたいただき、デザインに結び付けていただきました。公園というのはデザインもさることながら出来た後の管理運営も非常に重要です。今後もUDCBKが中心となり大学と市が一体となって管理運営について進めていってもらえればという望みがあります。

【B委員】

社会実験準備事業のもう一つ大きな柱として駅前のパブリックスペースの取り組みがあります。現在、UDCBKに模型を置いていて今後成果報告会もありますが、こういった取り組みを地域の方に発信して見ていただくことが大切だと思っています。また、駅前については今後も時間をかけて整備していく必要があると考えています。

【座長】

それでは委員の皆様から御質問、御意見いただければと思います。

【C委員】

南草津駅周辺の公民連携での空間利用促進について交通の観点としては、どのようにお考えでしょうか。

【事務局】

南草津駅周辺の社会実験が2年前から実施されており、その結果を受けて、来年度以降も協議を行うこととなっておりますので、都市計画部と連携しながら、考えていきたいと思っています。

【座長】

来年度以降そういったことを検討されているということですか。

【事務局】

予算が伴うことですので断言できるものではないのですが、社会実験を受けた後どのように動いていくかUDCBKも協議の中に入れていただいて担当課の方と連携して考えていけたらと思っております。

【座長】

皆さんにとっても非常に関心のあるテーマだと思います。他に御意見ありますか。

【D委員】

社会実験準備事業についてですが、お金を出して各大学からいろんな研究の成果を出してもらって、最終的なゴールというのは、それがいかに草津のまちづくりに活かされていくのか、活かされていくからこそお金を出していくということだと思います。来年以降も実施されていくということですが、何か具体的にこういう事業がこういう可能性を持っているということがあれば教えていただきたいと思います。

【事務局】

UDCBKは社会実験準備事業という形を取らせていただいております、具体的に決まったものを実証するための準備段階というよりも、市が大きくテーマとして掲げている健康都市とか総合計画とか、そういったことを踏まえながらUDCBKの方でテーマ設定をしております。南草津ビジョンでは、駅前賑わい創出等もありますが、そういった将来につながるようなことをUDCでは実施させていただいております。具体的な動きの中でそれに沿って明確に進めていくというよりも、漠然と大きい将来的な話の中で進めているところがあります。公共空間の促進は何年と決まっているわけではないので、それに関わる情報を収集しながらテーマ設定をさせていただくという形です。

【D委員】

ここがとても重要だと思います。ここでやっていることを具体的に見える化すること、ここを突破口にしてUDCBKではこんなことをしていますと大々的にPRできると思います。社会実験準備事業でこういうことが出来ましたということを見せていただきたいと思います。

【事務局】

UDCBKの課題整理ブレストでもそういった話が出ています。特にプリムタウンは3年間継続しているので、出来るだけ実施された先生にプロセス等まとめていただくことによって、公園が整備された後にどのような形で住民の方が関わって繋がっていったかという成果が出ると思います。そういったことをひとつずつ丁寧にやっていきたいと思っています。

【座長】

プリムタウンの取り組みは成果として報告できるように、またその取り組みが住民の方の公園の利用促進になればひとつの役割を果たすことになると思います。昨年策定された南草津ビジョンの課題に絡めて社会実験準備事業を進めていくと具体的な成果につながり可能性を広げられるのではないかと考えております。

3. 協議

【座長】

続きまして、協議にある「UDCBK令和4（2022）年度実施予定事業（案）」につきまして、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

（資料の説明）

【座長】

委員の皆様から協議内容について、何か御意見等がありますか。

【E委員】

2点あります。1点目は社会実験準備事業についてです。大学側からいろんなテーマを提案するのですが大学がやれることにも限界があると感じています。地域に定着して継続していくためには行政だけでなく地域の方々ともつながるような形でできないかと思っています。また、社会実験準備事業と社会実験事業の関係についてですが、準備してきたことを次の段階へどう進めていくかというところを教えてください。もう1

点は大学生が住むまちプロジェクトについて、具体的な計画や仕掛けづくり等の考えがあれば教えてください。

【事務局】

まず社会実験準備事業についてですが、行政だけでなく、地域ともつながっていくことについて、私どもも課題として感じているところです。多様な情報発信手段で市民の方に興味を持っていただいて社会実験準備事業の輪をどんどん広げていくことを考えています。今年から始めたインスタグラムなどSNSのメリットを活かして、いろんな人とのつながりを増やしていきたいと思っています。また、社会実験準備事業から社会実験に発展していくことも各担当原課に働きかけて、より社会実験準備事業を充実したものになるよう努めているところです。

大学生の住むまちプロジェクトについては具体的に決まっていることはないのですが、賑わい創出という観点で考えますと駅前が通過点になっていることについて、滞留を考えていかなければならないと思っています。UDCBKのオープンスペースの件につながってきますが、大学生に関心を持っていただくと同時に大学に市民の方が関心を持っていただくということにも取り組んでいかなければいけないと思っています。例えば各大学の学部でどのような取り組みをされているか紹介させていただいたり、ゼミの取組公開など、そういったことを整理して例示させていただきながら進めていければと思っています。単に街中の滞留だけでなく、大学との連携について、どのような形で行政や市民が関わっていくかということも考えていけたらと思っています。

【E委員】

大学生の住むまちプロジェクトが実現したら魅力的だなと思います。先日大学の方に商業施設との連携の話が来ました。民間企業とは違うと思いますが、街中で人が集まって繋がっていく大事なポジションだと思いますので、いろんなネットワークを使っていくとより効果的できるのではないかと思います。

【F委員】

学習事業のアーバンデザインスクールとセミナーを来年度も進めていくとのことですが、参加人数があまり増えていないと感じます。開催告知についてSNSやオンライン等でもっと広くしたらどうかと思います。また、子育てもテーマにしてくださいますが、もっと市民に親しみやすいテーマにしたらいいと思います。

【事務局】

オンラインで参加しやすくなったにもかかわらず人数が少ないということに関して理由が見えてこないところがございます。参加されていない方のアンケートを取ることが

難しいので苦心しているところですが、もしかすると時間が合わない等の理由があるのかと推察します。出来るだけ広く告知させていただけるように、インスタグラムは導入したばかりですがメーリングリストの方で月1回メールを発信して多くの方の目に留まるようにさせていただいております。あとは参加のきっかけとして口コミというのが有効で、皆様からお声掛けしていただくことが大きな成果につながると考えています。私たちも利用者の方に声掛けすることが人と人が繋がっていくUDCBKのコンセプトにもつながっていくと思いますので、利用者の方の参加が増えていくことが望ましいことだと考えております。市民の方に親しみやすいテーマについては、特にセミナーの方で意識しており、出来るだけ参加しやすいよう、幅広いテーマ設定を行っております。また、今年度もUDCBKの利用者の方に講師を務めていただきました。関心がありそのようなテーマがあれば学習事業につながるように話題提供をお願いしたいと思っております。

【G委員】

社会実験準備事業の概要にある市民の居場所のところで、フェリエ南草津やUDCBKの利用状況からなぜ公共空間づくりが必要なのか違和感があります。そもそも駅に人が滞留することがあるべき姿という前提にも違和感があります。データや根拠はあるのでしょうか。

【事務局】

まず公共空間が必要かどうかについてですが、コロナ禍で人が密に集まる空間ではなく、屋外も含めて広い空間が求められるであろうという見方でテーマとして設定させていただいております。

【B委員】

補足します。これは社会実験準備事業の継続性とも関係があるのですが、今年度模型を使ったワークショップを行った際に「駅前は通り過ぎるだけで楽しみがない」という意見がありました。公共空間と書いてありますが、これは行政が管理しているという意味ではなくて民間が管理しているところも含めてみんなが利用するところという意味で記載しています。単に滞留すればいいという考えではなく自然と居たくなる場所が駅の魅力になるだろうということで、そのような意見は去年の社会実験準備事業の中で出ていました。データは今整理しているところです。それを踏まえて次年度ワンランク上げて継続していった他の事業に繋げていかないといけないと思っておりますし、その道筋を作っていきたいと考えています。

【座長】

御意見いただきましたので、より分かりやすくなるように修正も含めて考えていきたいと思えます。

【H委員】

先ほどのセミナーやスクールの参加者が少ないという件についてですが、思い切って平日の12時から13時にやってみるというのはどうでしょうか。例えば会社員の方はお昼休みになるので昼食を食べながら聞いてみようかとか、家にいる方もちょっとお昼に流し聞きという感じで最初のきっかけになるのではないのでしょうか。夕方や夜になると参加が難しい人も多いいと思えます。もうひとつ、ウォークアブルなまちづくりについて思うことがあります。朝子供たちが小学校へ分団登校する時に送っていくことがあるのですが、信号の時間がすごく短く感じます。小学校の方に10秒でも長くすることは出来ないかとお話したこともあるのですが難しいようでした。大学との連携もいいのですが、住民との連携も図っていただければと思えます。

【事務局】

まず学習事業についてですが、企業様では自主学習等で就業時間を利用したりすることはできるのでしょうか。こういう目的、こういう時間帯であれば参加できるといった条件等あれば教えていただきたいです。いろんな方の御意見を聞いて思い切って時間変更するというのは、来年度導入できればいいなと思っています。また、今の信号機の話のような住民の方の御意見はUDCBKで直接解決することは出来ないかもしれませんが、そういった御意見を蓄積して担当課に持っていくことは出来ると思うので、その声を届けられるような仕組みを整えたいと思えます。

【I委員】

社会実験準備事業の募集要項についてお伺いします。これまでの準備事業でどのようなことが行われてどういった成果が出てきたのか例を出していただけると、これから募集する人もどういったものが求められているか全体像が分かりやすいと思えます。UDCBKが求める事業が明確化されると思うのですが、そういったことは可能でしょうか。

【事務局】

過去の流れやデータ、成果等が募集要項に記載されていた方が分かりやすいと思えますので、そのような形で情報提供ができるように検討したいと思えます。また、今年度の取り組みについては成果報告会が2月16日に開催されますので、その内容についてもホームページ等で公開したいと思えます。

【I 委員】

全体像が分かるというのではないかと思いますので、そのあたり工夫していただければと思います。

【J 委員】

社会実験準備事業に今年は学生団体の応募はありましたか。

【事務局】

応募はありました。

【J 委員】

大学にはどのように周知していますか。

【事務局】

大学には担当部署に連絡をさせていただいたのちにメールで周知しています。

【J 委員】

担当部署から学生部にどのように周知されているか分かりませんが、学生の応募をもっと増やすことも大事なのではないかと思います。学生団体の活動がコロナの関係でかなり制限されているのでなかなか難しいところもあると思いますが、学生部への発信をお願いしたいと思います。社会実験準備事業募集のチラシを作ってそれを学生部の入口に置いておくとか掲示板に貼るとか、そういったことも効果があると思います。それから、この社会実験準備事業はハードルが高いと思います。市民のためというよりも市民の立場でというところを考えた方がより身近に感じられると思うので、ここで市民の立場でチャレンジできる仕掛けが何かできたらいいのではないかと思います。

【事務局】

周知についてですが、社会実験準備事業だけでなく他の事業についても大学の中に広くUDCBKの情報が届いていないという現状がございます。それは私たち職員が大学に出向いて直接お話をさせていただくことが出来ていなかった結果であると思いますので、今後の課題として考えていきたいと思っています。それから大学生や企業や市民の方がチャレンジできる仕組みについても、UDCBKに相談があった際に、何かしらの形で出来るだけ実現できるように取り組んでいきたいと思っています。

【K委員】

社会実験準備事業でA区分とB区分はどういった意味合いで分けているのでしょうか。A区分の中にB区分の細分化された内容も入ってくるのではないかとということと、B区分のテーマ数と採択数が合っていないように見えますが、そのあたりを教えてください。それから、コロナ禍でオープンスペースの利用者数が令和2年度と令和3年度はほとんど変わらないようですが利用者はある程度固定されているのでしょうか。

【事務局】

A区分はUDCBKとして重点的に取り組んでいきたいテーマで、A区分とB区分、それぞれの課題について重なる部分もあります。テーマ数は5テーマ程度とさせていただいていますが、今年度は5つの事業で4テーマを実施しており必ずしも数が一致するというわけではございません。

利用者数については緊急事態宣言の関係などもあると思いますが令和3年度の方が多くなってきています。今年度の特別アンケートの利用者状況を見ますと、初めて来られた方が約26%でリピーターの方が多く、リピーターの中でも年に数回利用しているという方が約32%となっています。新規の方とリピーターの割合が半々くらいだと利用者の広がりが出てくるという御意見も頂いているので、まちづくりに協力していただく方を増やしていくという意味で初めて利用される方が増えることも大事になってくると考えています。

【L委員】

社会実験準備事業のテーマが健康系に偏っているように思います。御提案ですが、こういう実験をする時にターゲットをきちんと決めた方がいいのではないかと考えています。例えば子育て世代にとっては安心安全なまちづくりの実験をしたり、環境に興味がある世代にはゼロカーボンの取り組みで例えば仮設の充電スタンド等の利用実験や行動観察をして検証をしながら環境宣言都市としてのバックアップをしていったり、また草津市は健幸都市を謳っていますので高齢者世代の方々にとって優しいまちづくりをコンパクトシティや歴史の観点からみていくというように、ターゲットを分けて考えていくと軸がしっかりして成果が生まれやすいのではないかと思いました。それから、先ほどのセミナーやスクールの開催時間についての御意見はとても良いと思いました。私の会社は11時半から13時まで昼休みなのですが、その時間帯だったら聞く人がいるのではないかと思います。またオンラインでも時間が固定されるのは大変だと思うので、見逃がし配信等をしていただけると更に視聴回数は増えるのではないかと思います。

【事務局】

社会実験準備事業のテーマですが、国から地方創生交付金が充てられていて、テーマに制約がかかっているというのが現状です。その中でも工夫すればターゲットを分かりやすくすることはできると思うので、社会実験準備事業以外においてもUDCBKとして誰に届けたいのかということは常に意識していきたいと考えています。学習事業の見逃し配信についてですが、現在、他の課で実施している学習事業で、いつからいつまでと期間を決めて視聴できるようにしているところもありますので、他の課がどのように取り組んでいるのか聞きながら、より多くの方に届けられるような工夫を考えていきたいと思います。お昼の時間のライブ配信も実施していけたらと考えております。

【E委員】

社会実験準備事業成果報告会についてもアーカイブ配信が出来たら良いと思います。

【座長】

そのように検討していただければと思います。

【M委員】

先ほどターゲットの明確化のお話を聞いて思ったのですが、学習事業のテーマでも講師の先生がどの方に向けてお話をしたいか、どのような方に聞いてほしいかということをも明記していただくと聞く側としては参加しやすいし、広報する側にとっても参加人数が増えて良いのではないかと思います。

【座長】

セミナーやスクールの案内のところで工夫していきたいと思います。他に御意見ありますか。

【D委員】

今日は社会実験準備事業について多くの意見が出ましたけれども、私が思うのはこの事業が1年契約で最後の成果発表会が終わったら終了なので継続性がないということです。毎年いろんな成果を集めただけで終わってしまうというのが現状だと思います。そろそろ、集めるだけではなくて育てるという視点も必要だと思います。草津市としてこれは面白いと思えるアイデアであり、市の施策とうまくマッチする可能性のある成果があるのであれば、その人がまた応募してくるのを待つのではなくて積極的に市の方から依頼して膨らませていってそれを事業に繋げていくと具体化に近づくのではないかと思います。

【事務局】

社会実験準備事業のUDCBKでの契約は単年になるのですが、出てきました提案に基づいて関連する部署にはUDCの方から早い段階で話をして関わっていただくこと、直近で事業計画をしている場合は繋がっていくというような形も取れると思いますので、そういった働きかけも行っていきたいと思えます。

【座長】

そういった働きかけが事業に結び付いているということを見える化することも、今後していただくようお願いしたいと思えます。

4. 閉会

【座長】

皆様からたくさん御意見いただきましてありがとうございました。令和4年度事業案ということで今の議論を踏まえて修正できるところは修正して、来年度の事業に繋げてもらえばと思えます。これで全ての議事は終了いたします。

【事務局】

委員の皆様、本日はお忙しい中、お集まりいただき、貴重な御意見ありがとうございました。UDCBKの課題について委員の皆様から御意見を頂き、どうすれば市民の方々にとっていい施設になるのか、いい事業になるのかということを考えるきっかけを頂けたと思っております。本日いただきました御意見につきましては今後のUDCBKの事業展開に反映してまいります。今年度の懇話会は今回で最終となりますが、委員の皆様任期につきましては、令和4年5月末までとなっておりますので、任期満了まで今後とも引き続きお力添えくださいますようお願い申し上げます。最後に、アーバンデザインセンターびわこ・くさつ設立以来センター長として御尽力いただきました及川委員が3月末を持ちまして御退任となります。ありがとうございました。それでは本日の運営懇話会を閉会させていただきます。皆様、どうもありがとうございました。